



2012年3月号 No.69

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

道連ニュース

『南医療生協(名古屋)』を訪問 ～異業種生協間の提携モデル～

北海道生協連の南医療生協訪問団は、大学生協や地域生協と社団法人を設立し「協同・夢プロジェクト」として運営している、名古屋市の南医療生協を2月24日・25日の日程で訪問しました。今後、道内生協の事業運営の参考にして頂きたい企画し、参加者は北海道医療生協・北海道住宅生協・東北地連の役職員9名です。北海道医療生協の参加報告書をご紹介します。

＜北海道医療生協からの報告＞

2月24日から2日間で南医療生協の見学へ。運悪く寒波到来で梅の花もまだ蕾み。春の陽気を期待しましたが北海道より寒いのでは…！しかし、コープあいち・南医療生協の皆様には、大変暖かく迎えて頂きました。

南医療生協は、1959年の伊勢湾台風の医療救援活動を機に診療所からスタートした病院。組合員308人からの出発で、現在は6万5千人。南医療病院を含め診療所、訪問看護ステーション、グループホームなど40事業所が、組合員の要望と協力により設立・運営されているとのことでしたが、今回は時間の都合で見学はできませんでした。

25日朝からは、南医療生協病院の見学。JR東海道線南大高駅から徒歩2分と交通の便は最高。大きなスーパーが隣接し買い物も便利です。近代的建物の1階は吹き抜けのロビーで、カフェからはコーヒーの香りが漂っている。地域住民の駅までの通路にも利用され、多くの人々が往来している様は到底病院のロビーとは思えません。2階にはフィットネスクラブ「Wish」があり、トレーニングマシンがずらりと並んでいる。その他にも、天然酵母・石釜焼きベーカリーやオーガニックレストラン、旅行代理店、多世代交流館、図書

館などがあり「ここが病院？」と思ってしまう不思議な空間。土曜日の昼近い時間にも関わらず、各診療科の待合室には多数の患者さんの姿があり、この病院の人気の高さを伺い知ることができました。

5年の歳月を掛け、組合員・職員・地域住民の意見を聞き、病院のコンセプトをつくりあげ、基本理念は「みんな違ってみんないい ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」。総工事100億円のうち20億円を出資で賄ったとのこと、組合員のパワーと係わる人々の情熱を感じさせられました。

また、コープあいち、大学生協、南医療生協の3者が共通の理念を持ち「協働・夢プロジェクト」を設立し現実のものとした。協同組合間の事業連携は全国でも初めてでさうで南医療生協の「協同の向こうにみえる未来」づくりを参考にし、是非北海道でも実現できればと熱い思いで帰ってきました。



南医療生協病院の1階吹き抜けロビー

監査報告書の改善が必要と確認しました

～検討会で7生協10名が交流～

2月29日午前、コープさっぽろの広田常勤監事を講師に「監事監査実態調査をふまえた監査報告書の改善のお願い(日生協会報3/15)」を受け、監査報告書の作成上の留意点を中心にお話を頂きました。

広田氏は①実態調査による、現行の監事監査の確認②日生協モデルを参考に自生協の監査報告書について検証③参加生協間の意見交換に分けて報告頂きました。

会報10頁に「事例とその解説」が記載されていますが、①記載する日付②監事会の性格③代

表監事の職名は不記載④「監査の概要」や「監査意見」のタイトル表示は旧モデルであり、改正生協法に対応できていません。その他項目についても記載内容の文例に合わせていくことの必要性が語られました。

主催した道連前川専務からは、道内では大学生協や一部の会員を除き、「事業報告書」ですら改正前の水準が見られるとともに、「監査報告書」にいたっては更に不十分な状況である旨の報告がありました。又、「生協法5年後見直し検討委員会・答申」及び「生協法改正要望案」が公表され、意見募集がされていることが紹介されました。

参加は事務局を含め7生協12名で、総会・総代会を直前に控えた時期でもあり大いに改善の必要性を共有できた検討会となりました。

2月29日に開催した監事監査報告書の検討会



コープ
さっぽろ

東日本大震災復興支援の取り組み ～生活支援“きずな”～

震災直後からの救援募金は3月20日まで取り組み、総額2億1979万404円の善意が寄せられました。全額を義援金として日生協を通じて被災地に届けました。募金額としては過去最高で、道民の心から支援したいとの強い思いを感じました。

組合員さんから「募金活動だけでなく北海道に避難



2月18日(土)、きずなバザーを札幌駅前通地下歩道空間で開催

してきている方々への生活支援でも役に立ちたい」との声を受け、昨年6月、“きずな”が発足しました。組合員さんにボランティアを募り、活動メニュー（引越手伝い、物資移動運

搬、荷物整理など）の中から協力できるものを登録してもらい、現在71名です。また、ボランティアの自主的な活動も始まっています。ボランティアさんが手編み靴下カバーを作成し“きずな”が受付窓口となり、避難者の欲しい方へ郵送でお届けしました。

11月5日と2月18日には支援バザーを開催しました。組合員さんから沢山の利用しなくなったものが寄せられ、郵送で送ってくださった方も多く少しでも支援したいとの組合員さんの気持ちがひしひしと伝わりました。バザー会場では、避難の方は無料、それ以外の方はお買上げ金額を全額義援金としました。



会場でのチャリティコンサート

網走学校生協

『第57回通常総代会』を開催！ ～事業活動を強化・魅力ある学校生協へ～

前年度の総代会は“3月11日”に行われ終了直後、オホーツク地方も大きな横揺れが起きました。東北で大地震が発生し多くの尊い命が奪われ、私たちの記憶から消えることのない未曾有の災害となりました。同時に福島第一原子力発電所の重大な事故で今後の進むべき道、生き方についても深く考えさせられる年になりました。亡くなられた方、行方不明者あわせて約2万人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。全国40学校生協会員から義捐金、見舞金としての振込みなど、全国で復興に向けた支援活動が継続されています。

本年度の総代会は、3月12日に行われました。総代100名中、出席総代44名、書面議決書52名、計96名で、総代会成立の報告後、議事進行にうつり事業報告、事

業計画等が承認されました。バブル経済破綻以後、給与削減、リストラ、少子高齢化などの影響で経済の長期低迷が続き、家電量販店、インターネット購入が進んでいることから、厳しい事業活動が続いています。

網走学校生協独自の対面販売をいかし、様々な商品



3月12日、総代会で全議案が承認

提案、現物PRなどの営業と企画を強化し、工夫しながら多様化する組合員のニーズと継続的な魅力ある学校生協としていくことが必要となっています。

北海道住宅生協

カーブドッチ経営者落希一郎さんに、究極のワイナリーを聞く

労金の外郭団体に「ロッキー会」という住宅・不動産業界だけで作る組織があります。全道1,100社、札幌は390社が参加する社長の会です。事務局が住宅生協になっている関係から深くお付き合いをしています。

今回は、2月23日に開催した「ロッキー会の教養セミナー」についてご報告いたします。講師は、12月のカンブリア宮殿にゲスト出演し全国的に注目されているカーブドッチ社長落希一郎氏を招き「私のワインづくり、会社づくり」と題して講演が行われました。

講演では、三笠市幾春別中や岩見沢東高などで過ごした日々や学生運動で東京外国語大を中退、ドイツ国立ワイン学校で学んだワインづくりや生き方を教えてくれたドイツの話、大量生産や大量消費などとはまるで違う、一定のファンだけを相手にしたワイナリーの話、カーブドッチの「掟」・観光バスは入れない・子ども

はレストランに立ち入れ禁止・お客様は神様ではない。

日本のワイン業界に反旗を翻し、誰一人見向きもなかった新潟の砂丘を開墾、今では年間30万人を集める超人気ワイナリーに育て人々を魅了する。

TV対談で村上龍氏は『日本は全体的には衰退しつつあるがやりようによっては真の意味で豊かになっていく可能性があるのだと、そう思わせる人々と地域が、数は少ないが確実に存在する』と感想を述べています。

皆さんも曲げない経営を展開するカーブドッチへ究極ワイナリーを訪ねて下さい。



ロッキー会の教養セミナーで講演するカーブドッチ社長落希一郎氏